②　「夢ナビゲーション」

◆教育の対象者
○主に中学生～大学生
◆教育の実施者
○各学校の担当教員
◆教育プログラムの企画者
○京都リサーチパーク(株)

◆教育プログラム企画の背景・経緯
○経済産業省平成 13 年度起業家精神涵養教材等開発普及事業の一環として開発。
◆教育プログラムの学習指導要領における位置づけ
○「総合的な学習の時間」、情報教育、進路指導、社会、国語、学級活動、課題研究などの時間に
◆教育プログラムの目標
○アントレプレナー精神を持ち、職業を通じて自己実現でき、社会を変革し、地域社会や地元経済に貢献できる人材の育成
◆教育プログラムの目的
○起業家を通して、問題解決していく力や夢を実現する上で第三者の支援を得ることの重要性を学ぶ。
○やりたいと思ったことを実現し、直面した問題を解決していくために必要とされている技能や取り組み姿勢を学ぶ。
○仕事を通して自己実現する喜びを知り、将来やりたいこと、好きな分野で仕事をしていくためにはどうしたらよいのかなどを考えさせる。
○企画書作成というグループ活動を通して、発想力・創造力・決断力・判断力・チームワーク力・表現力・コミュニケーション力・問題発見力・問題解決力・チャレンジ精神などを習得する。
○自ら考え、学び、行動に移す方法を習得する。

◆教育プログラムの内容
○実施期間・回数・頻度・延べ時間
・教材の活用時間は学校によって様々。６～８回で数単元のみ抜粋して実施する学校は、週１回１年間活用している学校もある。教材を導入した学校のねらいによって必要な時間は担当教員が決定する。
・本教材は、教材開発時に 2001 年 12 月～2002 年２月末にかけて、追手門学院大手前中学校、京都府立北嵯峨高等学校、京都府立商業高等学校にて試験的に導入し、その効果を検証。2002 年４月より一般の学校にて導入。
○実施場所
・教育機関での導入の際は、その機関の教室内で、または課外活動として他の場所で。
○対象者の人数規模
・規模は問わない。ただし、グループ活動が中心であるので、必ず３人～６人ほどのチームに別れて課題解決に取り組む。
○教材の概要
・13 単元から構成されている。生徒の主体的な活動を支援するために、提示された課題の解決方法を、インターネットを使ったり、課外活動を取り入れたり、まず、個人で考え、次にグループで議論、活動、発表という形式をとっている。
・本書は、若い人達がやりたいと思ったことを、単なる夢や思いつきで終わらせず実現していくために必要な企画力の習得を目的としている。
・生徒は、まず、起業家から夢を追い続け実現するためのエッセンスを学び、自分自身について考え、将来について人生企画書を作成。企画書のイメージをつかんだ後、決

められたテーマのもとグループでアイデアを出し合い、情報収集や情報分析、スケジュールや予算、組織体制などを考え、予測される問題を発見し、その解決方法を考え、実現までの過程を構想としてまとめる。第三者の支援を得ることを前提とした「企画書」作成の活動を通じて、発想力、創造力、問題発見能力、問題解決能力、決断力、判断力、表現力などの総合的な企画能力を習得する。同時に、チームで共同作業に取り組むことで、チームワーク力やコミュニケーション能力、チャレンジ精神などを培うことをねらいとしており、指導者が課外活動や外部講師の招聘などを取り入れ、生徒が多様な視点から情報収集したり、アドバイスを得たり、柔軟な授業展開ができるよう工夫されている。

＜単元構成＞

テーマⅠ　夢の実現に向けて―持たない夢は実現しない

単元	学習テーマ
1	夢を追いつづける人
2	自分はHow Much?
3	人生の企画書
4	発想トレーニング―創造力を磨け！
5	マイ･アドベンチャー

テーマⅡ　実現のための戦略作り―構想をまとめる

単元	学習テーマ
6	仲間と一緒にアドベンチャー
7	情報なくして戦略なし
8	分析なくして成功なし
9	実現の可能性をチェック
10	これで勝負！－アイデアは完璧だ

テーマⅢ　夢のあるところに人が集まる―失敗から成功へ

単元	学習テーマ
11	このアイデア買いませんか？
12	行動あるのみ！－アイデアを実現しよう
13	次のアドベンチャーに向けて

※教師がその日の授業の導入（学習内容とねらいの説明）から入り、課題を個人→グループで実施→発表→自己評価という形式をとる。
※生徒用教材のワークシートに提示されている課題や自己評価はすべての質問に回答させるのではなく、担当教師が必要と思ったところのみを実施。

◆教育プログラム実施にかかる事業費

○教材費：2002 年４月以降に販売予定：生徒用教材と指導者用マニュアル、各 1000 円を予定

◆教育プログラムの効果

○従来の授業とは違い、自ら考え行動しなければ物事が進まない状況で、グループで互いに協力することを学びあっている。
○自己ＰＲ書や人生企画書などの作成を通じて、自分自身について、また将来について見つめなおす良い機会となっている。
○アイデアにすぎなかったことを、いかに実現していくか、また実現するために必要なスケジュール計画、組織構成、予算などについて考える良いきっかけとなっている。

東北経済産業局
「アントレプレナーシップ教育プログラムの普及に関する東北的モデル検討調査報告書」
（H13 年度）

◆教育プログラム実施にあたっての課題 「アントレの木」と同様
◆行政・企業・地域社会による支援の状況 ○当教材は、経済産業省の平成 13 年度「起業家精神涵養教材等開発普及事業」の一環として開発されたもので、その後の普及を京都リサーチパークが行う予定。
◆照会先 ○京都リサーチパーク(株)企画部開発室マネジャー 起業家教育センター　プロジェクトマネージャー　原田　紀久子氏 ・〒600-8813 京都府京都市下京区中堂寺南町 17 ・TEL:075-315-9103　FAX:075-315-9134

(資料)起業家教育センターヒアリング

※照会先は以下に変更しています。
特定非営利活動法人アントレプレナーシップ開発センター
京都市下京区中堂寺粟田町 93
TEL: 075-315-9103
FAX: 075-315-9134
プロジェクトマネージャー兼事務局長　原田紀久子氏